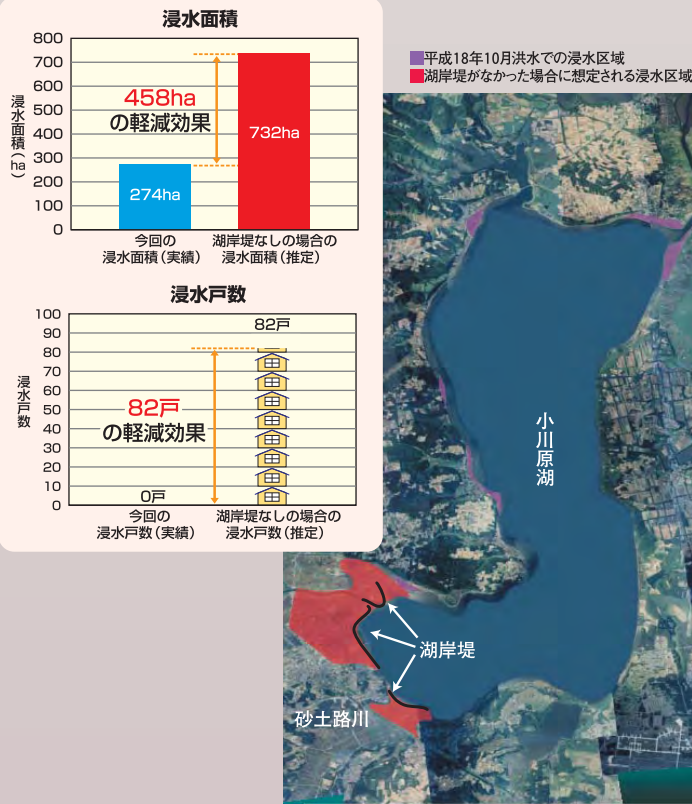


CHECK POINT

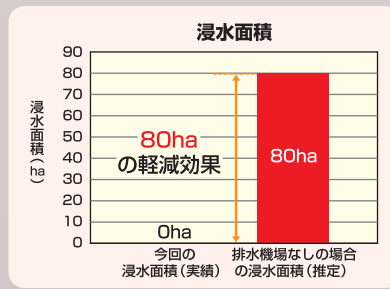
▶ 小川原湖湖岸堤の効果

小川原湖の湖岸堤は、昭和53年度より着手され、堤防必要区間10.6kmのうち、8.5km(約80%)が完成堤または暫定堤防で整備されている。
平成18年10月洪水では、この湖岸堤の整備により、仮に湖岸堤が無かった場合に比べ、浸水面積458ha、浸水戸数が82戸の被害を軽減した。



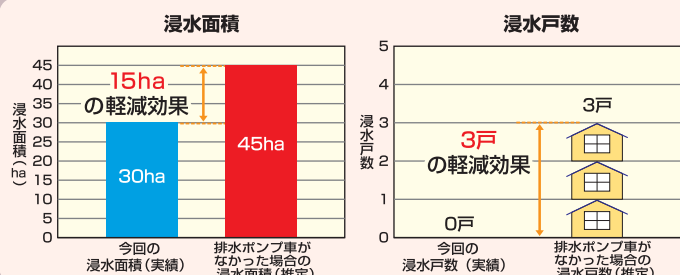
▶ 内水排除 (ポンプ) による効果【高瀬川水系】

小川原湖に流入する砂土路川の両岸に並行して流れる津花川と流川においては、排水機場が昭和63年度に整備されている。平成18年10月洪水では、この排水機場の稼働により、仮に排水機場が無かった場合に比べ、浸水面積80haの被害を軽減した。
※総排水量 約254,000m³ (プール 縦25m×横13m×水深1.3mの約600杯分)

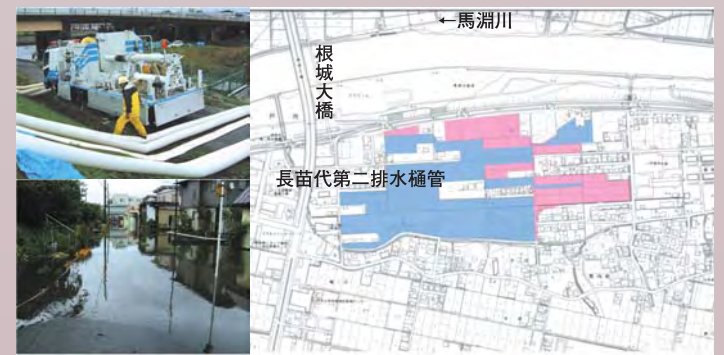


▶ 高瀬川 (東北町上野地先) 排水ポンプ車の効果

高瀬川水系の支川である赤川 (指定区間) の東北町上野付近にて10月8日14時ごろ浸水被害に見舞われ東北地方整備局保有の排水ポンプ車を出動し排水作業を実施。排水ポンプ車での排水効果により浸水家屋3戸、浸水面積15ha、農作物の被害を軽減した。
※浸水軽減面積 15ha、浸水軽減水位 約1.0m



▶ 馬淵川 (八戸市長苗代地先) 排水ポンプ車の効果



出勤場所	運転開始	運転停止	運転時間	ポンプ車規格・所属
長苗代第二排水樋管 (長苗代地区)	7日 17:45	8日 13:20	19:35	排水ポンプ車 (30m ³ /分) 八戸出張所
	8日 5:30	8日 11:50	6:20	排水ポンプ車 (30m ³ /分) 岩手河川国道事務所応援

項目	浸水面積	最大浸水深	浸水戸数
排水ポンプ車なし	9.4ha	4.32m	床上12戸、床下16戸
排水ポンプ車あり	6.4ha	2.95m	床上11戸、床下11戸
被害軽減効果	3.0ha	1.37m	床上1戸、床下5戸